

最近の農政トピック

～いちご「栃木 i37 号」の名称を「とちあいか」に決定～

いちご新品種「栃木 i37 号」の名称については、6つの名称候補の中から、このいちごを実際に召し上がった方にどの名称がふさわしいかを選んでいただく投票キャンペーンを実施し、県内外の方から大変多くの投票をいただきました。

その結果、最も多くの票を得た「とちあいか」を、令和2年7月28日、このいちごの名称として決定しました。

名称の由来のとおり、全国の皆さんに“愛されるとちぎの果実”となることを期待しています。



とちあいか

～県内外に安全で良質なとちぎの食肉を！～

令和2年4月、本県産牛肉及び豚肉の流通の拠点施設として「とちぎ食肉センター」が開場しました。高度な衛生・品質管理の下、県内外への県産食肉の安定供給と本県畜産の生産振興に貢献します。

また、米国やシンガポール、EU など、5つの国・地域へ、牛肉の輸出が可能な施設として認定され、令和2年8月のシンガポール向けを皮切りに、「とちぎ和牛」の輸出が順次進められています。今後、県産牛肉の国内流通はもとより、海外での販路開拓に大きく貢献することが期待されます。



とちぎ食肉センター



初輸出の様子

～「栃木プレミアム」農産物生産者団体等認証制度の創設～

県産農産物のブランド価値向上のため、品種の持つおいしさや大きさなどの特長を最大限に引き出した商品を生産・販売できる団体等を認証し、その商品を「栃木プレミアム」として流通させる制度を創設しました。

高い糖度と大きさ、美しい形などを兼ね備えた「にっこり 栃木プレミアム」、「スカイベリー 栃木プレミアム」の販売がはじまり、好評を得ています。



「にっこり 栃木プレミアム」

～「栃木県民ごはんの日」プロジェクトの展開～

毎月「5（ご）」と「8（はん）」のつく日は、1日3食おいしい栃木県産米を食べましょう！

県民の皆様へ改めてお米の良さを知ってもらい、ごはんを食べる機会を増やすため、県を挙げての米の消費拡大運動「栃木県民ごはんの日」プロジェクトを開始しました。



とちぎのごはん
おいしいまる♪



プロジェクトの趣旨に賛同いただいた民間企業や団体等が実施する米消費拡大につながる取組を協賛事業として募集しております。



お問合せ先

ふるさと活力応援隊事業の詳細については、下記の窓口にお問合せください。

お住いの地域	お問い合わせ先	
宇都宮市、上三川町	河内農業振興事務所企画振興部	TEL 028-626-3061
鹿沼市、日光市	上都賀農業振興事務所企画振興部	TEL 0289-62-5236
真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町	芳賀農業振興事務所企画振興部	TEL 0285-82-4720
栃木市、小山市、下野市、壬生町、野木町	下都賀農業振興事務所企画振興部	TEL 0282-23-3452
矢板市、さくら市、那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那珂川町	塩谷南那須農業振興事務所企画振興部	TEL 0287-43-1252
大田原市、那須塩原市、那須町	那須農業振興事務所企画振興部	TEL 0287-23-2151
足利市、佐野市	安足農業振興事務所企画振興部	TEL 0283-23-1455
事業全般	栃木県農政部農政課企画調整担当	TEL 028-623-2272



栃木を元気に!

ふるさと活力応援隊だより

Vol.4

ふるさと活力応援隊 活躍中!



ふるさと活力応援隊の活動

人口流出や高齢化が進む中、農山村地域では、地域の維持や活性化に必要な人材が不足し、その結果、耕作放棄地や鳥獣被害の増加、集落機能の低下などの課題が深刻化してきています。ふるさと活力応援隊員は、県職員として現役時代に培ったノウハウを生かして、地域を元気にするための様々な“ふるさと活動”に取り組んでいます。

隊員数：103名（令和3（2021）年2月現在）

＜ふるさと活動の例＞…… 集落営農の推進、鳥獣被害防止対策、地域保全、直売所・農村レストランの運営、食育活動 など



鳥獣被害防止対策



地域保全（生き物調査）



食育活動

隊員の取組紹介

篠川 松枝 隊員（宇都宮市）

～地域学「みずほの」のランチ講師として～

篠川隊員は、宇都宮市瑞穂野生生涯学習センターで開講されている地域学「みずほの」の食部門講座「みずほのランチ」の講師を行っています。

講座では、特産物の再発見と活用をテーマとして、地域で生産量の多い、いちご、トマト、豚肉、きのこ類や古くから使われているかんぴょう、新しい作物のアスパラガスなどを使ったランチ作りを参加者に指導しています。

「この活動を通して、講座参加者に豊かな農産物を再認識して頂き、地域の活性化につながれば」との抱負を持ち、今後も地域の再発見に向け、活動を継続していくこととしています。



調理実習風景



講座テキスト

倉持 洋子 隊員（鹿沼市）

～多彩な活動で地域を元気に～

倉持隊員は、地域のエコ活動に取り組む「エコネットかぬま」の事務局長として、平成26年から、健康の維持増進や遊休農地の活用を目的にエゴマ栽培を行い、地域の環境保全に取り組んでいます。更にエゴマ栽培者を拡大するため、栽培指導や料理集作成、種子や苗の配布などの運動を展開しています。

また、平成30年には、地元の有志と共に「子供食堂」や高齢者の「サロン」を立ち上げ、週1回開催しています。食材の調達などを行う上で、倉持隊員の幅広い人脈と知識は仲間から頼りにされ、なくてはならない存在です。現在は、次世代を担う子供たちによるふるさとづくりのイベントの企画を進めています。



エゴマの栽培状況調査



エゴマの収穫・調整

中田 登 隊員（栃木町）

～獣害対策と美しい農村環境づくり～

中田隊員は、イノシシ被害の多発や遊休農地増加による集落内の環境悪化を懸念し、平成26年から多面的機能交付金活動に着手し、集落内の農業者等に声をかけ「小名路里山を守る会」を立ち上げ、農村環境の保全に取り組んでいます。

これまで、集落内を囲む山々約4kmに防護柵を設置、遊休農地の草刈り作業、排水路の整備、堤防沿いへの桜の植栽などに取り組んできました。

これらの活動により会員間のコミュニケーションが強まり、農業農村活性化事業への積極的な参加や自治会活動の活発化にもつながっています。

今後も「小名路里山を守る会」の活躍に大きな期待が寄せられています。



イノシシ防護柵設置作業



防護フェンスの運搬作業

小川 正順 隊員（那須烏山市）

～地域農業・農村の将来ビジョンの策定～

那須烏山市下川井地域では、地域農業・農村の将来ビジョンの策定を進めています。小川隊員は現在、同地区の多面的機能保全組織「下川井の郷保全会」の事務局長を務めており、将来ビジョンの策定を牽引しています。

農業経営の現状と10年後の展望、将来に向けての意向等について下川井地区自治会全戸を対象にアンケート調査を実施したり、地域の現状と課題抽出のためのワークショップを開催するなど、「下川井地域営農ビジョン（案）」を取りまとめました。

今後も、ビジョンに掲げた担い手組織の育成や農地保全活動など、具体的な取組を展開していく予定です。



ワークショップの様子

柳 義雄 隊員（那須塩原市）

～農村景観を描き伝える～

柳隊員は、集落の農地・水保全事業の事務局長を担う一方、地域の人達と、遊休農地の解消や農村環境の保全向上に努めています。具体的には、休耕田を活用した花畑づくりや、水路の維持管理、3世代交流の収穫祭などの活動を行っています。

また、どんど焼きや、ぼうじぼなどの伝統行事の保存にも努めています。（小学生・中学生への伝承）

個人的には、現職時代から続けている趣味の絵画を活かして、農村景観の美しさや、農作業を絵で表し、集落や公民館の文化祭や、絵画仲間との展覧会を通して、農村の良さを伝え、多くの方との交流を深めています。



休耕田に花畑



柳隊員と油絵（代かき作業）